

一般財団法人 研究学園都市コミュニティケーブルサービス
第45回 放送番組審議会 議事録

- 1 日 時 令和7年3月27日(木)午前10時30分～午後零時00分
- 2 場 所 ホテル日航つくば 本館3階ジュピターウエスト
- 3 出席者 中山伸一会長、生田目美紀委員、馬場清康委員、鷺田美加委員、石塚敏之委員、勝村英樹委員

【ACC S】

森下理事長、金谷副理事長、梅原理事、竹谷理事、山崎放送部長、小野放送部次長

4 議案の審議経過等

- (1) 出席委員は6名で、放送番組審議会規定第4条1項の規定により、本審議会は有効に成立していることを確認した。
- (2) 議事に入る前に、森下理事長がACC Sを取り巻く状況と今後について説明した。
- (3) 中山会長の進行で議事に移り、まず昨年開催した第44回放送番組審議会の議事録の内容を確認した(議事1)。続いて、「ACC STVデジタル多チャンネルサービスについて」(議事2)、「ACC Sコミュニティチャンネル放送について」(議事3)をそれぞれ事務局が説明したあと、意見交換した。

5 意見交換

「ACC STVデジタル多チャンネルサービスについて」(議事1)

【中山会長】

多チャンネルサービスには、プレミア、ベーシック、ライトの3タイプがあるが、契約数が再放送サービスに比べるとかなり少ない。多チャンネルサービスは、ACC Sの収入源なので伸ばすことが重要である。来年度取り組むC-CASとACASについて説明してほしい。

【山崎部長】

ケーブルテレビの視聴制御をする仕組みが今はC-CASだが、この方式が世代交代してACASになる。C-CASは終わるので、ACASとC-CASと両方見られるSTBに交換している。ACAS番組の放送を開始したところ。

【中山会長】

現状では、ACASの場合はノンスクランブルなのか？

【山崎部長】

「えんてれHD」と「satonoka 4K」はACASで送信しているので、新しい4K用ACAS対応STBで、「4Kプラス」というオプションで見られる。

【中山会長】

新しい方式で見られるSTBの交換は費用も掛かるが、新しい番組を見るために必要。

【生田目委員】

どのような形でお客様の動向を把握しているのか？

【山崎部長】

動向は、お客様からのメールや営業担当などからの情報のほか、ケーブルテレビ業界でのアンケートや各番組のデータなどから得ている。視聴率を取って調べる方がいいが、業界で発表されている視聴者数と営業担当などから情報を基に、放送チャンネルを決めている。

【生田目委員】

プレミアム契約者の年齢層、視聴者数、視聴番組などの集計データはあるか？

【山崎部長】

そこまでのデータはないが、高齢の方がメインだと感じている。若い方向けの番組を増やすと共に、高齢者が逃げないように、高齢者向けの番組も必要になる。

【生田目委員】

つくば市には海外から来る人が増えているが、海外向けの番組を多チャンネルに組み込むことは可能か？

【山崎部長】

「CNN」や「BBC」といった外国人向け番組をライトコースから省いたが、「NHKワールド」を512chで放送している。海外番組の放送は可能だが、費用の問題がある。

【中山会長】

重要な意見だと思うので、海外向けの番組については深く調べてほしい。

【馬場委員】

今、MLBで日本人選手が活躍し日本は盛り上がっている。大谷選手の活躍は子どもからお年寄りまでが見ているので、ACCSの多チャンネルでもMLB中継をやっていることを積極的に

知らせたらいいのではないか。

【山崎部長】

海外のスポーツは為替の関係もあって調達コストが上がっているの、番組供給会社からは放送料を値上げしてほしい、とされている。

【鷺田委員】

20代や30代はスマホで様々な配信会社から情報を得ている方が多いので40代、50代以降の高齢者をターゲットにするのがいい。退職されて時間ができた方が、好きなドラマなど多チャンネルを熱心に見ている。メンテナンスの機会など対面で放送番組などの営業するような機会はあるのか？

【山崎部長】

メンテナンスと営業は部門が別なので、機器メンテナンスの時のサービス説明はうまくいっていない。反省材料だ。

【鷺田委員】

はがきや電話、ネットのお知らせだけではなく、メンテナンスの訪問時にお勧め番組のチラシを渡すなど対面の機会に営業するのが一番効果があると思う。

【石塚委員】

人口の動きとSTBの設置世帯数の関連性が気になる。つくばは市民の価値観が多様化しており、他のケーブルテレビの多チャンネルを比較しているか？

【山崎部長】

ACCSのチャンネル数は多い方。他のケーブルテレビと同じようなラインナップになっているが、可能な限り新しいチャンネルとして、例えば囲碁将棋や寄席などをいち早く取り入れてきた。

【石塚委員】

多チャンネルは大切な収入源。多チャンネルの充実は大事だが、ローカルということもとても大事で、そこをどう組み合わせていくかが課題と思う。

【勝村委員】

つくば市の人口は伸びているが、ACCSの契約数は減少傾向になっている。これは転出によるのか、それとも契約していた人が何年か経つとやめていくのか？

【山崎部長】

テレビのサービス契約をネット配信に乗り換えていると思う。

【勝村委員】

営業はがんばっているだろうが、ACCSにはいろんな多チャンネルがあるので、それを売りに出してがんばってほしい。

【中山会長】

多チャンネルサービスはACCSの大きな柱なので、ベースになる、若しくはセレクションの対象になる番組のリサーチをがんばってほしい。また、特徴のある番組やスポーツ、文化などバランスを取ることを考えて、多チャンネルの基本計画を練ることがいいと思う。今のチャンネルを削って目玉のチャンネルに入れ替えるなど、取捨選択して色づけを明確にするのがいいのではないか。

「ACCSコミュニティチャンネル放送について」（議事3）

【勝村委員】

「つくば市長選挙開票速報」だが、開票が長引いてご迷惑をおかけした。当落が確定する前に選挙のいろんな動きを伝えてくれたのが素晴らしかった。「ウィークリーACCS」では、みどりの南小学校中学校の開校に合わせた企画が放送されると、周辺地域を知ることにつながると感じた。「つくば発熱中スポーツ」だが、高齢者の方々が生き生きと楽しそうに活動しているのがよく分かった。つくば市も地域の多様なつながりを進めるため、公共施設等を活用してたまり場や居場所づくりを進めている。

【石塚委員】

来年度の取り組みの中で、「市民と連携した番組作り」に興味を持った。また、「住民の目線による自主制作番組を積極的に放送し、地域社会に貢献する」ことはとても大事。メディアといわれるジャンルは多様な情報媒体が存在し、必ずしも事実だけが伝わっていない。ACCSの番組は信頼性が高く、安心して見られる。これからも、いつどこでどんな情報に着目されるか、どういう番組構成にして伝えるかという視点を社内で共有し、議論を交わしてほしい。選挙番組はご苦労はあるが、ふだんは見られないものに接することができる大事なものだ。「ウィークリーACCS」のみどりの南小学校中学校の番組を見て、校歌も変わったと思った。この校歌では、学校の名前は出てこない。校歌のコンセンサスがどう形成されたのかと気になった。「まーごんそとあそび」だが、今までドングリを気にしたことはなく、口に入るとは思わなかった。「つくば発熱中スポーツ」は、私と同世代の皆さんが生き生きと楽しんでいる表情が伝わるので励みになる。

【鷺田委員】

「つくば市長選挙開票速報」は、大変分かりやすい構成で、保存版の番組になった。テレビを

見ているというより、その場に居合わせているような臨場感があった。最後の小野さんのインタビューが印象的で、五十嵐市長が笑顔になっていたのは、長年「市長が語る」の放送の実績があるからだろう。「ウィークリーACC S」に出演していたアナウンサー、神原千恵さんの日本語の発音がきれいで、聞いていて気持ちがいい。私が周辺市街地R 8シンポジウムに参加したとき、そこで地区の人がACC Sで放送された節分祭の番組を流しており、「ACC Sに出た」とすごく強調していた。ACC Sのロコミ隊に出演者になっているのがうれしかった。「まーごんそとあそび」は、昭和時代を彷彿させるほのぼの感がよく、アナウンサーとの掛け合いが面白かった。ドングリを食べる歴史では、昭和のおやじギャグに近いやり取りがよかった。「つくば発熱中スポーツ」では、皆さんが楽しそうだった。今後も生き生きとした姿を取り上げてほしい。

継続をお願いしたいことが三点ある。一点目は、補正されていないリアルなつながりを伝えてほしい。同じエリアで会おうと思えば会えるけど、会わなくてもつながっているという安心感を提供してほしい。二点目は新しい住民への配慮。つくば市民なら知っているという前提で放送しがちだが、つくばを知らない人もいるという視点を常に持ってしてほしい。三点目は、若い世代がリアルなつながりを求めており、そういう意味ではACC Sにも求められていると感じている。20代の50%以上が動画を倍速視聴していて、ナチュラルな速度のACC Sと若い世代とのギャップをどうつなぐかが課題ではないか。YouTubeにアップされている番組は、若い人は倍速再生して見るため、了解が得られるならYouTubeへの投稿を増やしてほしい。

【馬場委員】

つくば市のホームページには1,000近いサークルが登録されて、シニアのサークルもある。会員を募集しており、私は健康マージャンとスポーツ吹き矢に興味があるが、まだアクションを起こしていない。「つくば発熱中スポーツ」でカンタンボッチャが紹介されていたが、スポーツという切り口でシニアの活動を取り上げている。もっとシニアを前面に出して、つくばのシニアのサークル活動を紹介していただきたい。2025年では3人に1人が65歳以上の高齢者、5人に1人が75歳以上の後期高齢者になる。アクティブシニアにとっては、シニアのサークルを紹介してもらえば、自分の活動範囲を広げる情報収集のツールとなり、アーカイブと共に人気番組となる。「つくば市長選挙開票速報」は、地元のケーブルテレビならではの取り組みだ。選挙事務所での生中継は臨場感があり、当選したばかりの市長への小野さんのインタビューはACC Sの面目躍如だ。地元のケーブルテレビの強みを生かした取り組みを続けてほしい。

【生田目委員】

つくばを離れている人や、なかなか外に出られなくなった人にとっては、紅葉をBGMだけでただ風景を流す番組はよかった。「まーごんそとあそび」のドングリも実は科学的な視点が入っており、ドングリの見分け方やカメラワークで寄るなど、正確な情報でつくばならではの科学的な視点を持った番組だった。2022年に70年ぶりに博物館法が改正され、博物館資料を含めすべてをデジタルアーカイブ化することに文化庁が推している。これはACC Sがやってきたことだと思った。YouTubeの番組を見ると、「昭和41年～47年頃のつくば」という番組が9年かけて5万回再生されている。5万人がデジタルアーカイブされたつくばの過去を見てい

ることが誇らしい気持ちになった。YouTubeにポストしたとき、そこに誘導する仕組みを考えるといい。クローズドキャプションの音声認識力が上がっているので、クローズドキャプションが充実した際は、生字幕にもチャレンジしてほしい。災害時の迅速な情報提供については、対面でお年寄りと話するとき、「ACCSには災害情報もある」とわかると、安心していただけると思う。

【中山会長】

「つくば市長選挙開票速報」でちょっと気になったことが、キャプションである時間で「当選」と書いていいのか？ 生放送で大変だと思うが、情報の確実性、信頼性を担保するのは重要だ。また、実際にインタビューしているとき、テロップで「インタビューがあります」と流れていたが、生放送中もテロップの切り替える視点をもう少し持ってもいいのではないか。「ウィークリーACCS」の校歌はもう少し説明があった方がいい。小倉さんは校歌の作曲をしたが作詞者は別の人が、その辺の関係が分かりづらかったので、もう少し情報を整理することが重要。「紅葉」は、情報量としては少し足りないが、ああいう番組はアーカイブ的には重要。アーカイブとして保存するとき、いつ、どこで撮ったという情報をタグ付けして保存すればいいのではないか。将来映像を使うために保存する体制をつくっておくべきだ。

「お知らせTIME」の出演者は、選択しているのか？

【小野次長】

基本は、ウェルカムで受け入れている。無料のイベントが前提。政治的、宗教的なものは除外している。

【中山会長】

ある程度、「お知らせTIME」の選定基準が必要と思った。「まーごんそとあそび」は面白く、娯乐的、科学的要素も含めてよい番組。特に科学的部分は監修を入れてはどうか。今回ドングリを食べていたが、おなかを壊す可能性などのテロップを流す。娯楽としてはいいが、食べ物なので科学的な意見も聞いた方がいいと感じた。

【中山会長】（総括）

番組制作においてはどんどん技術が向上してきてよい番組が作られていると思う。多チャンネルについては難しい点もあるが、もう少し時間をかけていろいろ検討してもいいのではないかと思った。